

金沢まちなか区域における歴史的住宅の改修・改善調査

正会員 ○宮本 敦史 同 増田 達男**
同 川上 光彦*** 同 永野 紳一郎****

歴史的住宅 金沢 継承
改修 改善

1. はじめに

本稿では、これまで調査が充分進んでいなかった金沢まちなか区域における歴史的住宅の屋内空間について、継承・活用を促進するため、建物屋内の改修・改善工事の経緯を調査により明らかにし、手引き書作成の基礎的な知見を得ることを目的としている。なお、研究データは、金沢市の委託により金澤町家研究会で実施した調査結果に基づき、内容については報告者の責任でとりまとめている。

2. 調査概要

調査地区は、金沢の旧城下域であるまちなか区域としている。調査対象は 2005 年度の金沢都市計画基礎調査結果の 5436 軒の内、1/25 無作為抽出した 217 軒としている。これらを訪問調査し調査協力が得られ 29 軒についてプレアンケート調査、実測調査、ヒアリング調査を行った。

表1 改修・改善の理由と場所

理由	改修内容	場所																
		屋根	外壁	1階前面	玄関	トオリニフ	廊下縁側	階段	ミセノマ	チャノマ	座敷	1階居室	便所	風呂	台所	吹き抜け	2階居室	納戸
a: 高齢化によって	1: 段差解消												1	1				
	2: 便所の洋式化											2						
	3: 場所移動													1				
	4: 使用材の変更											1		1				
b: 時代の変化への要求	1: 新しく窓を設ける												2	3	1		1	
	2: 便所の洋式化												2					
	3: 床の仕上げ変更				1		2		3					1	3		4	
	4: 壁の仕上げ変更				4		2	2		3	3	1		2	2			
	5: 天井の仕上げ変更						1			1	1	1		2		2		
	6: ユニットの導入																	
	7: 使用材の変更	1	1		1		1	1		1	1	1						
	8: 間仕切りの変更																	1
c: 利便性の向上	9: 新しく窓を設ける					1			1	1					1	3	1	1
	6: 床の仕上げ変更											1						
	7: 壁の仕上げ変更																	1
	8: 天井の仕上げ変更																	1
d: 老朽化により	1: 掃床								1			1		4				
	2: 窓の拡張					3								2				
	3: 動線変更							1										1
	4: 場所移動											3		4				
	5: キッチンの導入																	
e: 店舗空間の利便性向上	1: 仕上げ変更			4				3										
	4: 床の仕上げ変更									1								
	3: 壁の仕上げ変更									1								
	5: 天井の仕上げ変更									1								
	1: 窓の拡張			1					1									
f: 住空間の改善	6: 動線変更				1													
	2: 場所移動												2					
	7: 用途変更										1			1			1	
	5: 新しく窓を設ける											1						
	1: 間仕切りの変更																	1
g: 工事に伴い	2: 窓の拡張			1														1
	3: 用途変更																	1
	4: 場所移動																	1
	2: 仕上げ変更		1	1	1				1	1			1	1	1			
h: 道路拡張に伴い	1: 場所移動												4		2			
	1: 窓の縮小			2								1						

凡例: □ 1~2件 ■ 3~4件 ■ 5件以上

注釈: 掃床は、土間を板床にあげる事である。

3. 改修・改善理由と場所

現在まで行われた改修・改善の主な理由及び内容と、箇所を整理したものが表1である。改修理由は「時代の変化への要求」が最も多く、次は「利便性の向上」となっている。他は少数の改修であった。工事の主な場所は、トイレや風呂、台所などの水周り空間が行われている。「時代の変化への要求」では茶の間や2階居室といった日常生活で頻繁に使われる空間の仕上げ変更が行われていた。通り庭や1階前面では、揚げ床が見られ、室の拡張が認められた。小数ではあるが水周り空間で高齢化に伴うバリアフリー工事が行われている。

4. 改修・改善年代

建物の改修・改善工事は主に戦後にはじまっている。昭和30年から50年代前半までは全体の空間で改修・改

表2 建物への不満点

不満点	件数 (%)
通風が良くない	2 (2.7%)
日当たりが良くない	6 (8.1%)
断熱性が良くない	3 (4.1%)
水周設備が悪い	3 (4.1%)
住宅の規模が狭い	8 (10.8%)
段差が多く危険	3 (4.1%)
気密性がよくない	3 (4.1%)
外壁が傷んでいる	3 (4.1%)
電気設備が良くない	0 (0%)
間取りが使いにくい	6 (8.1%)
内装が傷んでいる	5 (6.7%)
建物が歪んでいる	6 (8.1%)
天井が狭い	5 (6.7%)
耐震性能が劣っている	10 (13.4%)
防火性能が劣っている	4 (5.4%)
とくにない	4 (5.4%)
その他	3 (4.1%)
合計	74 (100%)

表3 今後の改修・改善希望場所

改修・改善希望点	件数 (%)
トイレ	4 (13.3%)
台所	2 (6.7%)
床下	3 (10%)
床	4 (13.3%)
駐車スペース	0 (0%)
居室	1 (3.3%)
玄関	0 (0%)
屋根	5 (16.7%)
外壁	3 (10%)
風呂	3 (10%)
その他	5 (16.7%)
合計	30 (100%)

A study about the Repair and improvement of the historical house in the Kanazawa old castle area.

MIYAMOTO Atsushi
MASUTA Tatsuo
KAWAKAMI Mitsuhiro
NAGANO Sinitiro

善工事が行われているが、以降は水周り空間が主に工事が行われている。これは、設備更新の工事が主に行われてきている事が認められ、平成期に入ってから外回りの補修工事が多くみられた。

5. 居住者の意識

表2、3は居住者の建物への不満やこれからの改修希望点を示している。建物への不満点において最も回答数が多かったものは「耐震性能が劣っている」10件(13.4%)である。しかし、「建物が歪んでいる」と回答したのは6件(8.1%)であることから、耐震性能が劣っていると感じているのは、建物が歪んでいるからではなく、建築年数が古いことや、伝統工法で建築されているからではないかと推察される。「住宅規模が狭い」と「間取りが使いにくい」と回答されている背景には町家系住宅の建築面積の狭さが一因として挙げられる。

6. 武士系住宅の改修実態

武士系住宅では、室の配置の変更はほとんど行われていない。比較的若い居住者が行った改修・改善工事では、2階居室の洋室化がみられた。これは若年者の同居による室要求であるが、他の武士系住宅ではみられなかった事例であり、注目すべき点である。台所と茶の間はDK化がみられ、水周り空間は、下水道工事を機会とした水洗化が行われ、仕上げの変更が見られた。便座の洋式化は、近年設備更新した家屋でみられた。

これらより、武士系住宅は元来専用住宅として建てられていることから、室配置の変更や居住スペースの拡張の必要性が無かったと推察される。しかし、社会的に住環境の向上が進む中で、子供の居住環境がベッドや机といった椅子座へ移り変わってきている事を一因とした洋室化が行われている。また、DK化は動線の簡略から当然の改修といえ、台所と茶の間が隣接していることから容易に改修が行うことが可能であったであろうと推察される。水周り空間は、建築当初から台所以外は床であった為、仕上げ変更程度であった。台所は設備の向上や使い勝手不便の理由から揚げ床が行われている。

7. 町家の改修実態

町家系住宅では、建築面積の狭さや建ぺい率の高さから居住スペースの改善に関する工事がみられた。7割弱の建物で通り庭の揚げ床が行われていた。間口の4間以上の家屋や店舗を有している家屋では通り庭が現存している。通り庭の滅失は、汚物の運搬通路や後部の土蔵への通路としての利用が無くなったことが一因として推察される。前部下屋空間の室の拡張も認められた。下水道

工事に関連して、通り庭奥に設置してある水周り空間は、室の奥に移設し、茶の間が後部へ移動して台所に隣接するように室構成の変更が行われている。後部ではなく、ミセノマに台所やトイレ等の水周り空間を配しチャノマの移動を行わなかった家屋も少数ではあるが見られた。武士系住宅と同様に、子供室は壁を化粧合板やクロス張りに仕上げ変更を行っているものが多く見られた。しかし、畳のままである家屋が多くみられ、椅子座への変更が顕著には見られなかった。

8. まとめ

歴史的住宅の改修・改善工事は、水周りの改修をきっかけに、居住空間の規模拡大やパブリック空間の設え等に認められた。しかしながら、改修・改善工事は居住者の住要求を十分に満たしたわけでは必ずしもなく、いまだに慢性的な不満をかかえているのが実状である。工事費の負担が大きい上に、高齢化に伴う諦観もまた認められる。したがって、限られた負担の中で、効果的な改修・改善手法を求める姿勢が必要となろう。今回の調査研究でその十分な手がかりが得られたとは言えないが、上記の結果からは、今後の住改善に際して、少なくとも次の点が示唆される。

台所や浴室等の水周り空間の性能確保が不可欠であり、主婦の家事環境の改善を含む台所の整備に関連する住改善がまず必要である。それは、土間の揚げ床によるキッチン空間の設えと、それに伴う食事・団らん空間としてのパブリック空間の充実である。具体的には、台所とパブリック空間の隣接が大切であり、さらにDK化への利便性向上が挙げられる。しかしながらプライバシーの確保については、とくに強い影響はうかがえなかったため、むしろ室規模や動線面を大切にしたい改善が必要である。

以上のように、今後の住改善には現代生活への対応と利便性の確保を挙げることができる。しかし、住改善を行うだけでは歴史的住宅の継承・活用がはたされたいえず、歴史性の維持・保全が伴わなければならない。例えばDK化に伴った椅子座化を挙げれば、これは必ずしも洋室化を意味するとは限らず、歴史的な内装を維持しつつ床座の方法をとることも可能である。この様に最小限の変更にとどめて畳の床座や土壁の内装を活かした現代的な和風の設えを工夫していくことが大切であろう。

<参考文献>

- 1) 増田達男：「既成市街地内居住地の形成過程に関する研究」、1990年10月
- 2) 萩野綾、亀井佑香、中野明：「京町家における生活変化に伴う改修パターンの分析」、日本建築学会学術講演梗概集、2006年9月

*日本再生住宅機構(株)

**金沢工業大学建築・環境学部 教授・工学博士

***金沢大学大学院自然科学研究科 教授・工学博士

****金沢工業大学建築・環境学部 教授・工学博士

*Nihonsaisei jiyutaku kikou Corp, M.Eng

** Professor, Department of Environmental and Urban Design, Kanazawa Institute of Technology, Dr-Eng

***Professor, Graduate School of Natural Science and Technology, Kanazawa Univ., Dr-Eng

**** Professor, Department of Environmental and Urban Design, Kanazawa Institute of Technology, Dr-Eng